

「地域医療ビジョン×未来投資」勉強会平成29年度成果報告会

## 地域医療連携システムに関するご提案

2018.3.24

地域医療ビジョン×未来投資勉強会外部委員  
大阪大学大学院 医学系研究科  
山本勇一郎

## アンケート結果より、見えてきたこと。

1. インターネット環境  
57施設中、49施設で利用可能 【普及率 86%】
2. 電子カルテシステムシステムの普及率  
57施設中、28施設で導入済み 【普及率 49%】  
クリニックでは、様々なメーカーが選定されている。  
病院は、富士通かソフトマックス。（徳洲会はすべてソフトウェアサービス）
3. 将来的に電子カルテを導入したい施設  
まだ未導入の29施設中、8施設
4. 電子カルテは導入済だが、紙カルテを併用している施設  
導入済：28施設中、13施設 【併用率 46%】
5. 医事会計システムのメーカーは多種多様  
医事会計システムの普及率は、89% 【6施設が紙レセプト】  
様々なメーカーが選定されている
6. PACSの普及率  
放射線機器保有施設 44施設中、22施設 【普及率 50%】  
様々なメーカーが選定されている

地域連携システムに求めること、への回答より・・・

- |                                     |      |
|-------------------------------------|------|
| 1. 中核病院に紹介した患者の検査結果や診療記録の閲覧         | 35施設 |
| 2. 中核病院に画像検査を依頼した患者の画像情報と放射線レポートの閲覧 | 22施設 |
| 3. 訪問診療・訪問看護・在宅介護情報の閲覧              | 17施設 |
| 4. 救急患者移送時の専門医へのコンサルテーション           | 14施設 |
| 5. 遠隔診療（TV会議システムを利用した対面診療）          | 7施設  |

実現したい機能と、奄美群島医療圏における各医療機関の置かれている現状より、最適な地域連携システムを考えると・・・

## 地域連携システムとして実現すべき機能

1. 中核病院に紹介した患者の検査結果や診療記録の閲覧 35施設

 **中核病院の医療情報を地域診療所に公開する公開型地域連携機能**

2. 中核病院に画像検査を依頼した患者の画像情報と放射線レポートの閲覧 22施設

 **公開型地域連携機能には、画像&レポート参照機能が必須**

3. 訪問診療・訪問看護・在宅介護情報の閲覧 17施設

 **訪問診療、訪問看護、介護職員の多職種情報交換機能も必要**

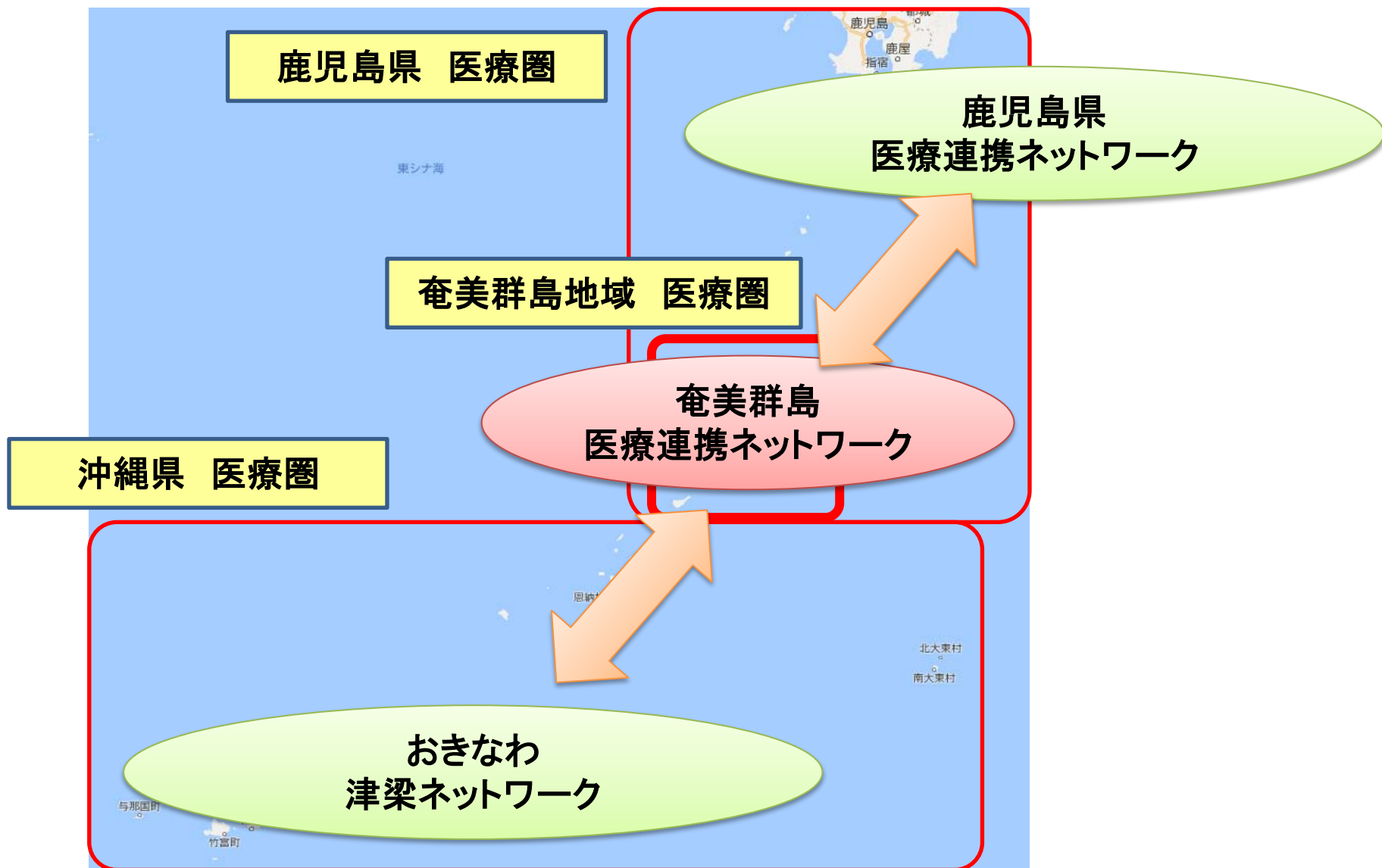
4. 救急患者移送時の専門医へのコンサルテーション 14施設

 **救急搬送時の専門医コンサルテーション機能（体制含む）も必要**

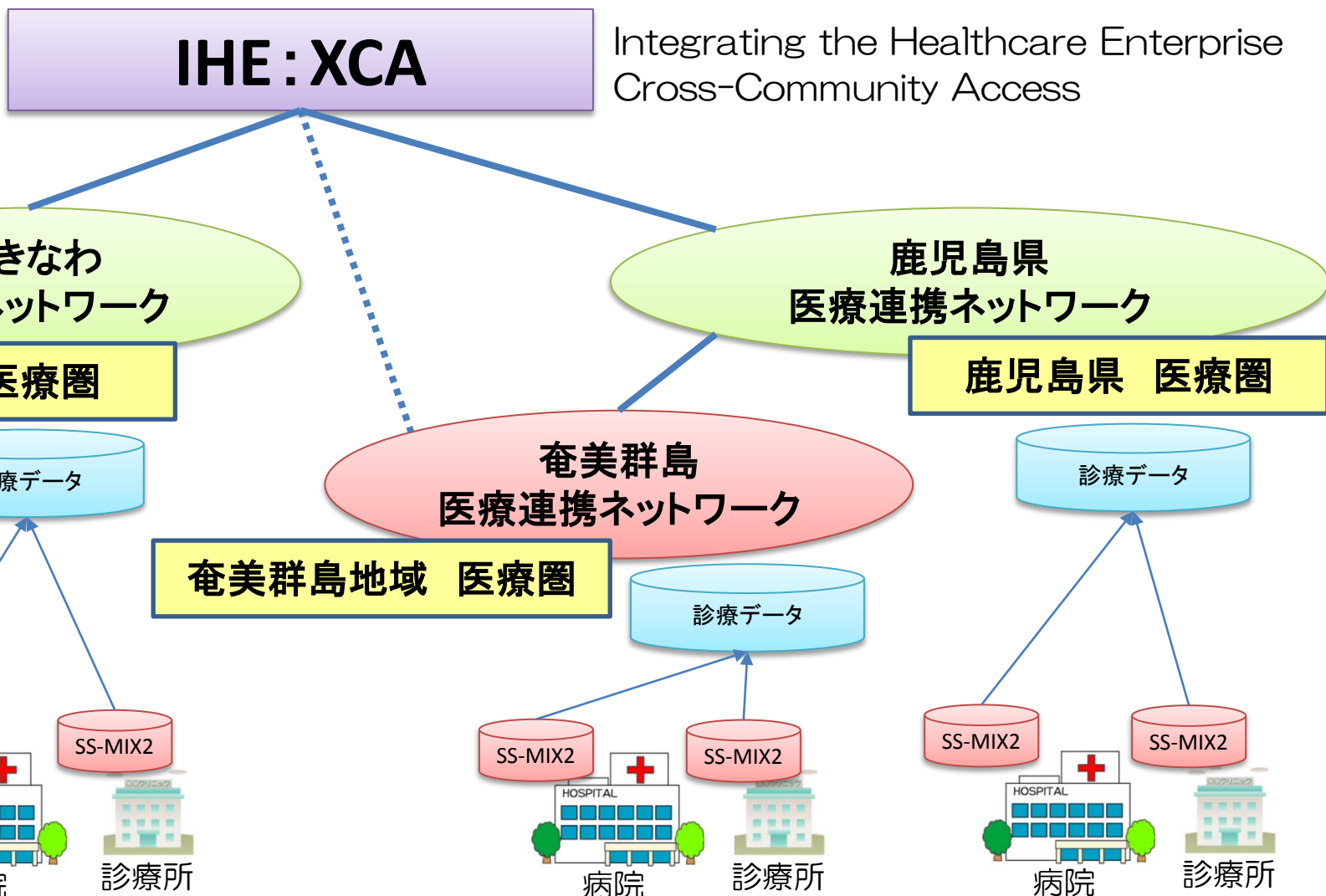
1. 鹿児島県域、沖縄県域の地域連携ネットワークとの相互接続性を有する、奄美群島地域基幹病院で発生する診療情報公開型ネットワークシステムとする  
※現状のインターネット普及率からも、無理なく展開可能
2. 画像&レポート情報の公開機能を有し、オプションとして医用画像アーカイブ機能を地域医療連携機能をとして提供できるシステムとする  
※PACS普及率を向上させ、医用画像のオンライン地域連携が積極的に行われているモデル地域を目指す
3. 訪問診療、訪問看護、介護情報共有を実現する、多職種情報連携機能を提供できるシステムとする  
※地域包括ケアを推進するための医療連携機能として定義

地域医療連携システムとしては、標準的な機能モデルです。  
選定可能なパッケージも複数あるため、競争原理も働きます。

## 県域をまたいだシステム連携に対応したシステム設計

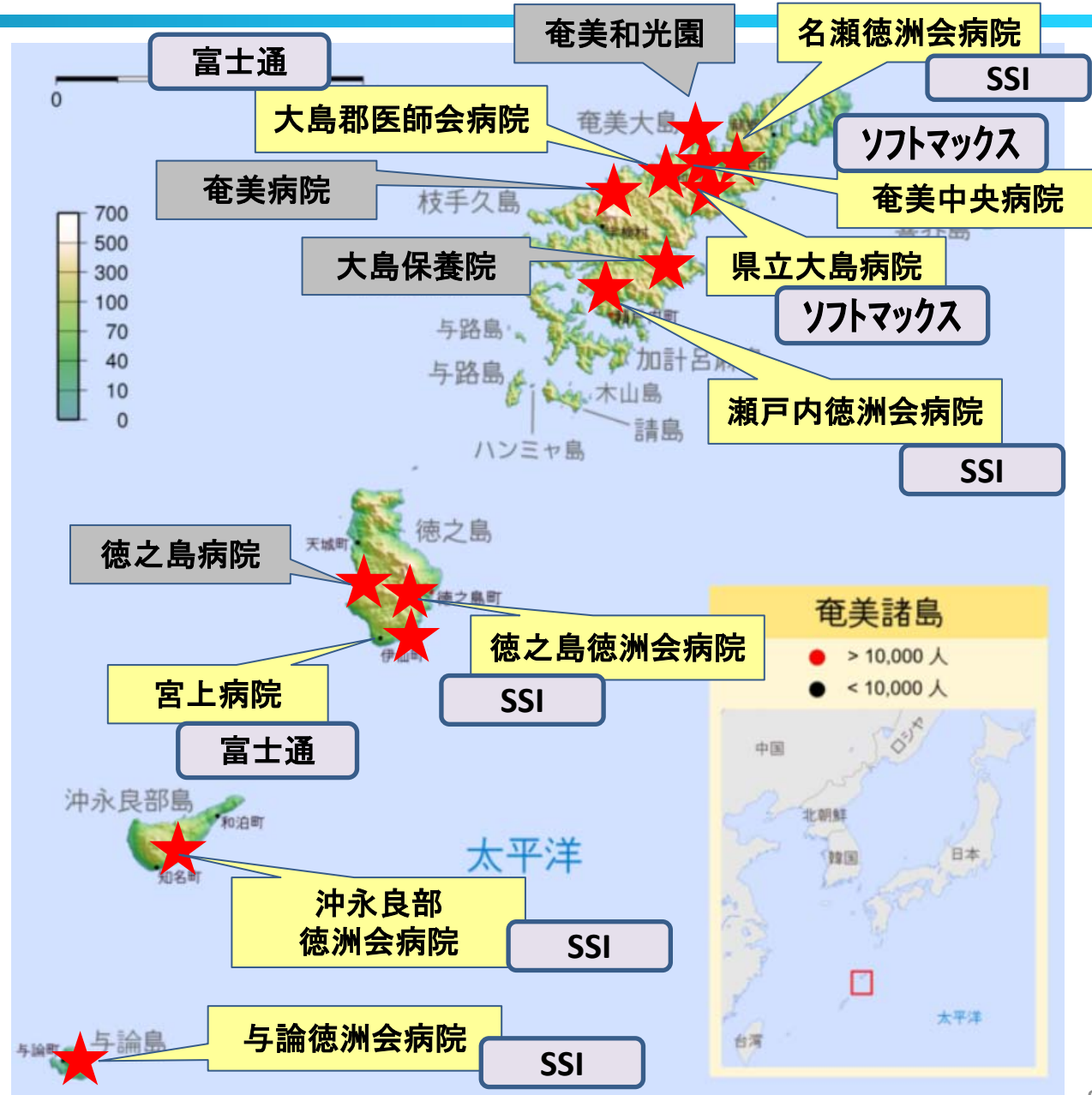


## 医療情報システム業界の標準規格を活用

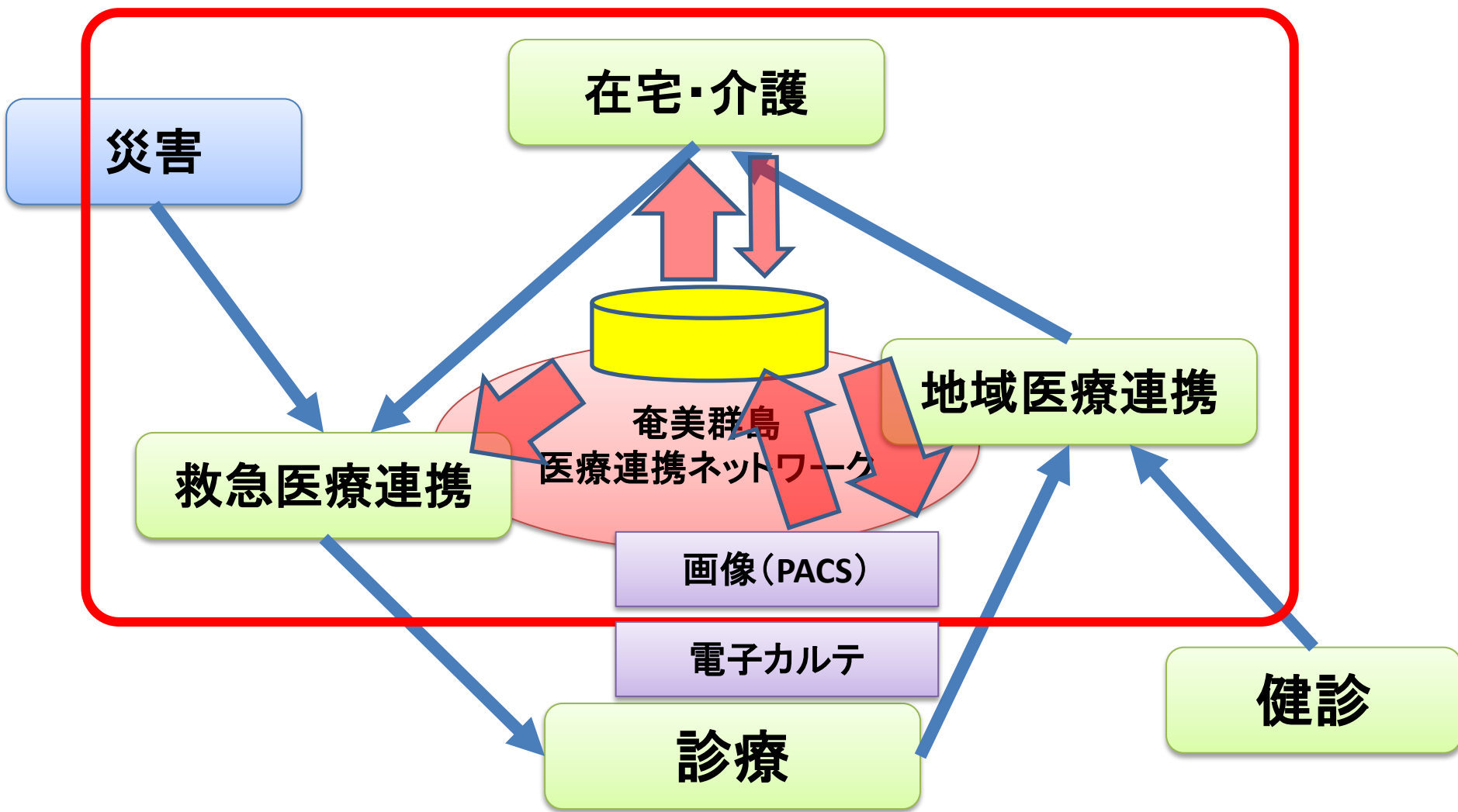


SS-MIX : Standardized Structured Medical Information eXchange

## 鹿児島県立病院

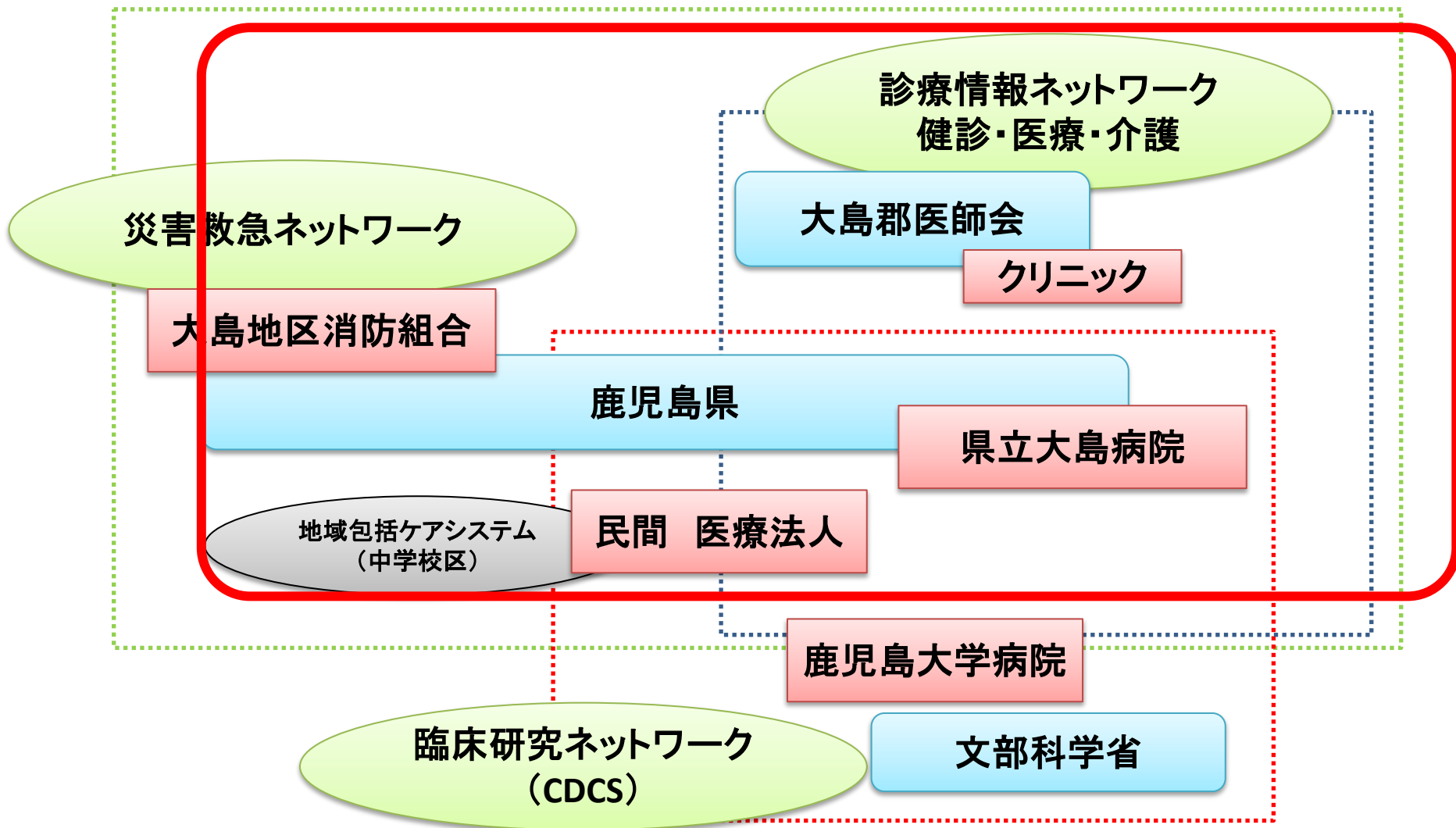




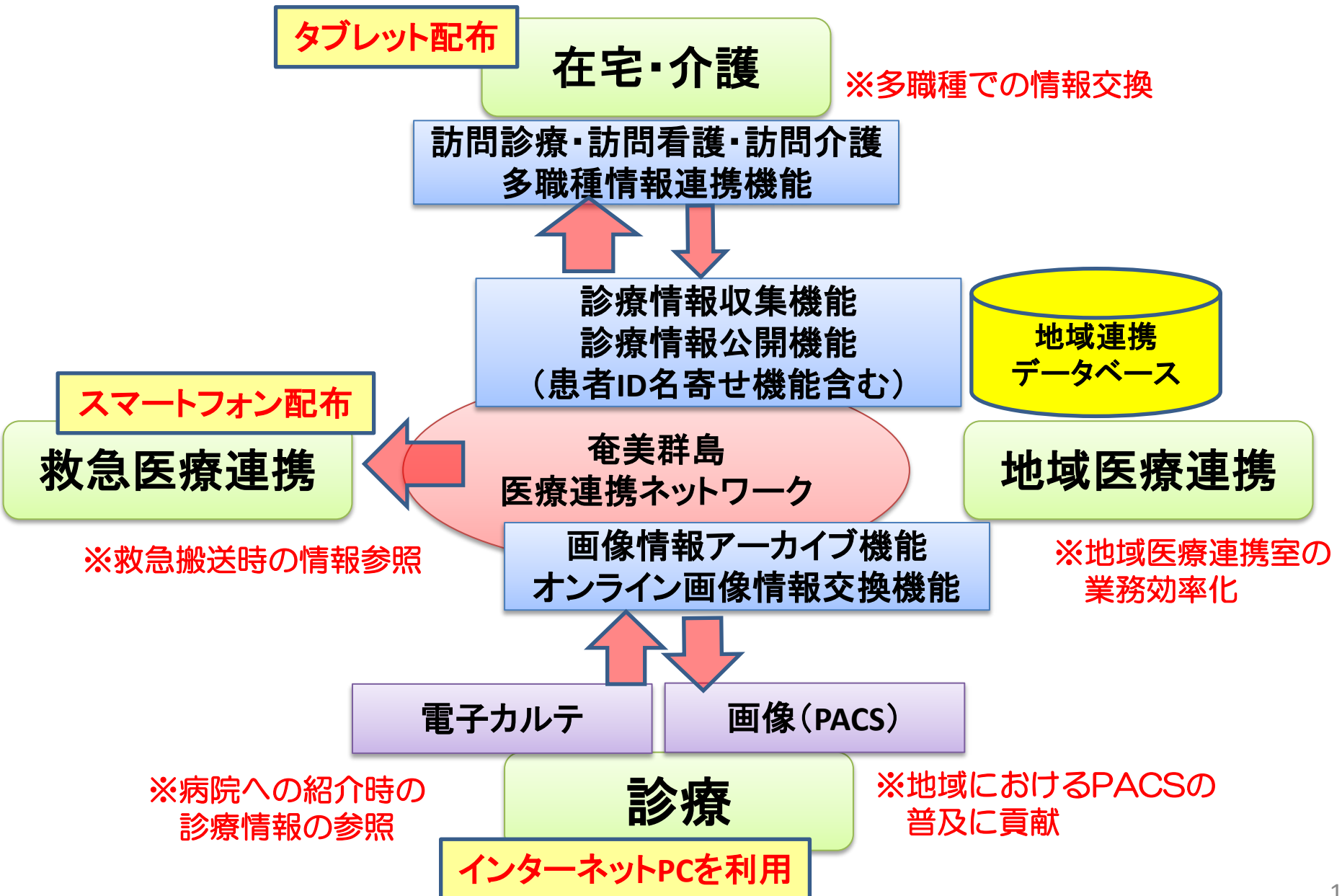


奄美群島医療連携ネットワークのカバー範囲

## 奄美群島地域医療連携ネットワーク



診療に近い領域での地域連携ネットワークシステムを構築



# End of Presentation

大阪大学大学院 医学系研究科

山本 勇一郎 (Yuichiro Yamamoto)  
e-mail : yamayuu-osk@umin.ac.jp